

主に都市部以外の遠隔地域における重度精神障害者の
在宅生活支援体制の構築に関する調査報告書

平成 18 年度障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）

平成 19 年 4 月

北 海 道

目 次

調査の概要	…… p 1
調査の結果等	…… p 2
1 調査結果	…… p 2
(1) 全体の概要	…… p 2
(2) 個別調査項目の概要	…… p 9
ア 在宅生活への移行・維持の条件や判断手法の妥当性	…… p 9
イ 遠隔地域における多職種による訪問型個別支援の効果	…… p 10
ウ 関係機関との具体的な役割分担	…… p 16
エ 費用対効果	…… p 17
2 今後の課題・対応	…… p 18
(1) 課題	…… p 18
(2) 対応	…… p 18
《資料編》	
・道立緑ヶ丘病院附属音更リハビリテーションセンターの概要	…… p 19
・訪問型個別支援実施要綱	…… p 20
・調査イメージ図	…… p 21
・調査スケジュール	…… p 22
・十勝管内の概況	…… p 23
・調査結果一覧表	…… p 25
・調査結果（訪問型個別支援実施対象ケース分）一覧表	…… p 27
・訪問型個別支援についてのアンケート（本人）	…… p 28

調査の概要

調査名	主に都市部以外の遠隔地域における重度精神障害者の在宅生活支援体制の構築に関する調査	
調査機関	北海道立緑ヶ丘病院音更リハビリテーションセンター 医療法 : 診療所 (デイケア大規模) 精神保健福祉法: 精神障害者生活訓練施設 (定員 20 名)	
調査対象	調査対象地区	十勝保健医療福祉圏 ・構成: 1 市 16 町 2 村 ・人口: 約 36 万人 ・面積: 約 10,800 km ² * 岐阜県とほぼ同じ面積
	調査対象者等	在宅生活を希望する概ね 18~60 歳の重度精神障害者
	悉皆・抽出の別	(悉皆 ・ 抽出) 道立緑ヶ丘病院等に入・通院歴のある患者やその家族等から在宅生活に関する相談を受け、同意が得られた方を調査対象として抽出
	調査方法	個々の調査対象者宅等への訪問調査
	調査客体数	1 2 2 人ケースを総数として、 うち 2 4 ケースについて訪問型の個別支援を実施
調査内容	①在宅生活への移行・維持の条件や判断手法の妥当性 ②遠隔地域における多職種による訪問型個別支援の効果や課題 ③関係機関との具体的な役割分担 ④費用対効果の調査 など	
調査時期	平成 18 年 4 月 1 日~平成 19 年 3 月 31 日 *訪問型個別支援による在宅生活支援体制構築のための追跡調査は平成 20 年 3 月 31 日までの 2 年間実施	
調査結果の主要集計項目	・ GAF 点数 ・ QOL (満足度) ・ 利用頻度 ・ 利用時間帯 ・ 訪問職種 ・ 訪問型サービスの内容と提供時間 ・ 連携した関係機関の職種、頻度、内容 ・ 収益、費用	
調査結果の活用法	主に都市部以外の遠隔地域における重度精神障害者の在宅生活支援方策の参考資料とするとともに、調査結果を市町村等の関係機関に広く紹介することにより、重度精神障害者の地域における在宅生活に対する理解の促進や市町村、医療機関等との連携・協働による地域生活支援体制の推進に資する。	
その他の参考事項		

調査の結果等

1 調査結果

(1) 全体の概要

2年間にわたる「主に都市部以外の地域における重度精神障害者の在宅生活支援体制の構築に関する調査」事業を実施し、平成18年度については、計122ケースを訪問調査し、24ケース（2ケースは年度末までに終了）について、多職種による訪問型の個別支援を実施した。

以下、訪問型の個別支援の全体概要は以下のとおりであり、主な特徴は次のとおりであった。

- 居住地については、主に都市部以外での遠隔地域での効果検証を目指したが、結果的には帯広市が66%であった。
- 疾病については、統合失調症が70%以上であった。
- GAFについては、50点以下を対象としたが、結果的には平均は39点で比較的重度の方を対象とした事業となった。（過去の入院歴が10年以上の方も約30%）
- サービスの利用については、平日日中がほとんどで、7日に1回以上の利用が約40%、内容は日常生活の支援が55%であった。

調査対象者	122名
登録者数	24名

調査項目	調査結果	割合	備考	
(1)居住地	帯広市	16名	(66.7%)	グラフ1
	その他の市町村	8名	(33.3%)	
(2)性別	男性	13名	(54.0%)	グラフ2
	女性	11名	(46.0%)	
(3)年齢	10代	0名	(0.0%)	グラフ3
	20代	3名	(12.5%)	
	30代	5名	(20.8%)	
	40代	4名	(16.7%)	
	50代	10名	(41.7%)	
	60代以上	2名	(8.3%)	
(4)疾病名	器質性精神障害	0名	(0.0%)	グラフ4
	統合失調症	17名	(70.8%)	
	気分障害	2名	(8.3%)	
	ストレス関連障害等	1名	(4.2%)	
	その他	4名	(16.7%)	

(5)利用経路	本人 家族 市町村 病院等 その他	8名 3名 1名 10名 2名	(33.3%) (12.5%) (4.2%) (41.7%) (8.3%)	グラフ 5
(6)過去の入院歴	入院なし 1年未満 1～5年 5～10年 10～15年 15～20年 20年以上	8名 3名 3名 3名 3名 2名 2名	(33.4%) (12.5%) (12.5%) (12.5%) (12.5%) (8.3%) (8.3%)	グラフ 6
(7)单身・同居	单身 同居	17名 7名	(70.8%) (29.2%)	グラフ 7
(8)住居	自宅 支援付住宅 間借り その他	7名 7名 4名 6名	(29.2%) (29.2%) (16.6%) (25.0%)	グラフ 8
(9)医療機関への通院頻度	概ね月4回 概ね月2回 概ね月1回	2名 19名 3名	(8.3%) (79.2%) (12.5%)	グラフ 9
(10)開始時のGAF点数	30点以下 31～40点 41～50点 *平均 39.0 点 (最低：22 点)	4名 8名 12名	(16.7%) (33.3%) (50.0%)	グラフ 10
(11)利用頻度	3日に1回 7日に1回 10日に1回 15日に1回 上記以下	2名 9名 6名 1名 6名	(8.3%) (37.5%) (25.0%) (4.2%) (25.0%)	グラフ 11
(12)利用時間帯	平日日中 その他	832回 12回	(98.5%) (1.5%)	グラフ 12
(13)サービス内容	症状確認 危機介入 健康管理 日常生活 対人関係 社会生活 社会参加 家族支援 その他	11,900分 1,025分 2,251分 35,080分 455分 5,475分 2,820分 1,725分 3,115分	(18.0%) (1.6%) (3.5%) (55.6%) (0.7%) (8.6%) (4.4%) (2.7%) (4.9%)	グラフ 13

(2) 個別調査項目の概要

個別調査項目としては、4項目を選定した。それぞれの調査結果の概要については、以下のとおりである。

- 在宅生活への移行・維持の条件や判断手法の妥当性
- 遠隔地域における多職種による訪問型個別支援の効果
- 関係機関との具体的な役割分担
- 費用対効果

ア 在宅生活への移行・維持の条件や判断手法の妥当性

①判断手法

事業の対象とする疾病、GAF等については、国内先行事例と同様の判断基準としたが、人的体制に恵まれたとはいえ、平成18年度の実施状況から鑑み、GAF平均39点の比較的重度の方に対し、適時の訪問支援（7日に1回以上の実施が全体の約40%）が実施できたことから、概ね妥当と考えられる。

しかしながら、帯広市のケースが全体の66%を占めたこと、関係機関との同行訪問が全体の5%程度であったことから、帯広市以外の地域における対象者の選定基準の妥当性は、平成19年度末の事業終了後あらためて判断する必要がある。

なお、精神科医療機関に通院していない医療中断型についても、本事業では対象外としており、この点については、平成19年度に新たに事業対象とし、その妥当性を調査していく。

②評価手法

訪問型個別支援が適正になされているどうかのモニタリングのツールとしては、簡便で利用者の負担が少ない観点から以下の3種を用いて実施し、サービス計画の作成、実施、評価、見直しのための指標として概ね妥当と考えられる。

ツール	頻度	活用
GAFの確認	半年に1回	ケアプランの作成、評価、実施
QOLの確認		
利用者、家族へのアンケート調査	1年に1回	満足度、サービスのミスマッチ解消

イ 遠隔地域における多職種による訪問型個別支援の効果

①事業の妥当性の検証

a) 病状と実施頻度からの検証

「GAF×実施頻度」、「入院期間×実施頻度」の2点から考察すると、GAFでは相関関係が見られなかったが、入院期間では15年以上の方により頻回に実施されている。

このことから、実際の訪問活動にはあたっては、GAF点数だけでなく、通院状況や居住環境といった要素が初期の訪問調査やモニタリング時に把握され、ケアプランの作成、見直しが適正に行われたものと考えられる。

なお、「GAFと入院期間」には相関関係は見られなかった。

「GAF×実施頻度」

GAF点数	平均実施頻度
30以下	8.1日に一回
31～40	14.4日に一回
41～50	8.7日に一回

「入院期間×実施頻度」

入院期間	平均実施頻度
1年未満	11.7日に一回
1～5年	11.2日に一回
5～10年	17.2日に一回
10～15年	14.5日に一回
15～20年	5.6日に一回
20年以上	4.4日に一回

b) 居住地と実施頻度からの検証

「居住地×GAF」、「居住地×入院期間」、「居住地×実施頻度」の3点から考察すると、居住地と病状については、GAFでは若干市内が重度であるものの、ほとんど違いは見られないが、居住地と入院期間については、長期の入院歴を持つ方は帯広市内に居住しているケースが多いことがわかった。

居住地と実施頻度の関係では、市内の対象者に手厚く実施されているが、広域性、医療機関からの遠隔性、機動力の制約によるものではなく、対象者の病状にあわせた結果と考えられ、ここでも初期の訪問調査やモニタリング時に把握され、ケアプランの作成、見直しが適正に行われたものと考えられる。

なお、長期入院患者が退院後も医療機関に通院可能な範囲を住居とする傾向の有無など、帯広市以外の地域における在宅患者の状況を詳細に把握する方法を検討する必要がある。

「居住地×GAF」

居住地	GAF 平均
帯広市内	38.4 点
その他の地域	40.3 点

「居住地×入院期間」

居住地	10 年以上入院歴
帯広市内	56%
その他の地域	29%

「居住地×実施頻度」

居住地	実施頻度
帯広市内	6.4 日に一回
その他の地域	18.9 日に一回

c) 病状とサービス内容からの検証

「GAF×サービス内容」から考察すると、GAF 30点以下では、日常生活支援が74%で他のサービスより突出している。これに対し、GAF 31～40点及びGAF 41～50点の2群では、日常生活支援が50%以下となり、相対的に症状確認や社会生活支援、社会参加支援などの割合が高くなっており、症状の重症度に併せた概ね妥当な内容だと考えられる。

GAFは実施頻度の決定にあたっては、他の要素に左右される可能性はあるが、サービス内容に関しては、適切なツールとして機能していることがわかる。

また、本事業では、対象者が他に訪問介護事業などの福祉サービスをあわせて利用している例は少なかったこともあり、結果として、重度の方に対しては日常生活の支援の割合が高くなるなど、より福祉サービスの性格が強くなるを得ない状況にある。

「GAF×サービス内容」

サービス内容	GAF 点数		
	30点以下	31～40点	41～50点
症状確認	11%	17%	25%
危機介入	1%	3%	1%
健康管理	1%	5%	4%
日常生活支援	74%	47%	47%
対人関係支援	0%	1%	1%
社会生活支援	5%	14%	7%
社会参加支援	3%	2%	7%
家族支援	2%	5%	1%
その他	3%	5%	6%

なお、日常生活支援について見ると、比較的社会資源が充足している帯広市内とその他の地域では、提供割合に大きな違いは見られなかった。

「居住地×日常生活支援」

区分	日常生活支援	(参考)平均 GAF
帯広市内	55%	38.4 点
その他の地域	52%	40.3 点

②事業の有効性の検証

今回の調査期間だけでは十分ではない面があるが、現時点において、以下の3点から検証した結果では、訪問型個別支援が症状の増悪を抑制し、再入院を防止するなど重度精神障害者の地域生活の継続に一定の効果があると推測される。

なお、アンケート調査結果では、チームによる支援やサービス量などで満足度が高く、継続して利用したいとの声があった一方、サービスの質やプログラムの効果などでは、他の設問と比較して相対的に肯定的ではない意見も見られた。

a) QOLによる検証

全般的評価は7段階評価で平均1.9の改善が図られた。

b) 入院動向による検証

- 利用前2年間で入退院歴のない方の入院は1名もない。
- 利用前2年間で入退院歴がある方は14名おり、そのうち、本事業開始後に入院に至ったのは3名のみである。
入院に至った3名については、過去2年間の入院日数ならびに入院回数と、訪問型個別支援を実施してからの平成19年3月31日時点までの入院日数と入院回数を比較すると一定程度の回数、期間の短縮効果があると思われる。

	過去2年間の入院回数	本事業利用後入院回数	過去2年間の入院全日数	本事業利用後入院全日数
A氏	1回	1回	730日	8日
B氏	4回	3回	24日	40日
C氏	3回	2回	225日	83日

* A氏は、平成19年4月1日以降も入院継続中である。

- 入院に至った3名と入院に至らなかった11名を「入院動向×実施頻度」、「入院動向×サービス内容」、で見ると、実施頻度は同程度であるが、サービス内容のうち、症状確認と危機介入を併せた割合は、前者は33%であるのに対し、後者では20%であった。

「入院動向×実施頻度」

過去2年間の入院動向	実施頻度
入院歴あり、本事業後も入院	8.6日に一回
入院歴あるが、本事業後は入院なし	8.0日に一回
入院歴なし	13.9日に一回

「入院動向×サービス内容」

サービス内容	過去2年間の入院動向		
	入院歴あり、本事業後も入院	入院歴あるが、本事業後は入院なし	入院歴なし
症状確認	23%	19%	15%
危機介入	10%	1%	1%
健康管理	2%	5%	0%
日常生活支援	44%	61%	42%
対人関係支援	4%	0%	1%
社会生活支援	7%	9%	8%
社会参加支援	3%	1%	14%
家族支援	0%	1%	10%
その他	7%	3%	9%

【参考】 アンケート調査（本人）結果 *回収率：81%

事業全般について（15項目）

質問項目	「とても役立つ」 「多少は役立つ」	質問項目	「あまり役立たない」 「全く役立たない」
1位 複数のサービスのチームによる一括提供	100%	1位 家族の不安、困りごとの相談	30%
2位 自宅を訪問してのサービス提供	94%	2位 お金のやりくりの支援	28%
3位 専門職種チームによる支援	93%	3位 社会支援（他のサービス）利用支援	27%

サービス内容について（8項目）

質問項目	肯定的意見及びどちらかというとき肯定的意見	質問項目	否定的意見及び又はどちらかというとき否定的意見
1位 サービス量に満足か	(とても満足+ほぼ満足) 100%	1位 サービスの質はよかったか	(まあまあ+良くない) 33%
2位 問題対処に役立ったか	(大いに役立った+まあまあ役立った) 100%	2位 必要としたサービスであったか	(多少必要+全く必要ない) 25%
3位 希望のサービスは受けられたか	(十分受けた+だいたい受けた) 88%	3位 知人に推薦するか	(しない+絶対しない) 18%

サービス提供にあたって心配なこと（9項目・複数回答可）

質問項目	割合
1位 心配はない	33%
2位 効果的なプログラムなのか	18%
3位 スタッフとの人間関係	11%
3位 サービス利用の費用	11%

訪問について（8項目・複数回答可）

質問項目	割合
1位 地域で生活する能力を伸ばすのに役立っている	21%
1位 家族の援助が受けられないときに役立っている	21%
3位 生活状況・生活の質がよくなると思う	19%

訪問型個別支援の継続について（2項目）

質問項目	「そう思う」
	「大いにそう思う」
継続して利用することは役立つ	88%
今後も継続して利用したい	94%

ウ 関係機関との具体的な役割分担

利用経路を分析すると、利用申込は、本人、家族、医療関係者で90%近くに達しており、市町村からの利用申込は、1名のみであった。

加入経路により、関係機関との協力のあり方が決定され、その他の多機関との連携・協働が限定される傾向が見られる。市町村経由で申込があった対象者1名以外のケースでは、利用者が生活している市町村との協働が不十分で、市町村からの協力は、主にホームヘルパーの派遣にとどまり、同行訪問も全体の5%程度と低調で、事実上、市町村を巻き込んだ利用者の支援は困難であった。

広域な地域をカバーするためには、市町村と連携した「多機関協働型チーム」による支援が必要だが、事業実施期間が短いことなどから、今回の調査期間だけでは十分な検証を行うことは困難であり、引き続き調査を継続する必要がある。

エ 費用対効果

①財源構成

本事業は、原則として「精神科訪問看護」の実施にあわせて、他のサービス提供を行う形で実施することとした。

②当事業単体での費用対効果の検証

訪問看護を活用した本事業における採算性は、概ね以下のとおりと考えられ、精神科訪問看護・指導料の診療報酬収益により、事務・事業費は賄えるものの、人件費（業務割合分）相当額が赤字となる。

注）当該訪問看護収益の補助金上の取扱については、全活動時間に占める「症状確認」の割合18%がこれに相当するとし、対象経費から当該割合を控除して申請、実績報告を行っている。

（10名体制での実施）

区分	項目	金額
収益	精神科訪問看護・指導料	約 2,300 千円
費用		約 12,700 千円
	人件費	給料等 約 10,800 千円
	事務・事業費	旅費、需用費、使用料 約 1,900 千円
収支差		▲約 10,400 千円

「人件費」の算出方法

- ・従事職員数 10人
- ・従事割合 訪問型個別支援：その他＝1：4
- ・人件費総計 約 54,000 千円（期末勤勉手当、時間外手当等含む）
- ・業務按分後の人件費 約 54,000 千円 × (1/5) = 約 10,800 千円

③医療費全体の中で見た費用対効果の検証

一定の仮定の下において、訪問看護を活用したモデルと他の医療サービスとの医療費を比較すると、仮に、精神科訪問看護・指導料が現在よりより大幅アップで診療報酬改訂されたとしても、入院医療費に比べて少額であると見込まれる。

区分	収益
訪問型個別支援（精神科訪問看護・指導料） *10名で100名に対し週1～3回訪問	1名あたり 月平均 2.2～6.7 万円
外来診療費（道立緑ヶ丘病院全患者）	月平均 8 千円（薬代込）
入院費（道立緑ヶ丘病院全患者）	月平均 40.5 万円（薬代・食事代込）
療養病棟入院費	月平均 32.7～18 万円（薬代込、食費代別）

2 今後の課題・対応（まとめ）

（1）課題

実施内容から見た課題

- 事業実施期間が短いことなどから、本事業の対象者とする重度精神障害者の選定方法、実施頻度の妥当性、入院抑制効果、市町村等の関係機関との連携・協働のあり方等について継続して検討していく必要がある。
- 対象者が訪問型の福祉サービスを十分利用していない場合、医療スタッフを中心としたチームにおいて、生活援助の性格が強いサービスの提供の割合が高くなることから、他のサービスとの併用・役割の明確化を検討していく必要がある。
- 市町村などとの連携・協働にあたっては、市町村の担当職員の精神保健福祉相談ノウハウの向上や、情報を共有しながら調整するための対策などが不可欠である。

費用対効果から見た課題

- 医療機関としてのアプローチでは財政的な裏付けが不足していることから、「入院医療中心から地域生活中心へ」の流れを踏まえ、地域生活を希望する精神障害者への施策の中で、医療費を含めた費用対効果を継続して検討していく必要がある。

（2）対応

本事業については、調査期間（平成 18 年度～19 年度）終了後、重度精神障害者の在宅支援方策の参考資料として調査結果を市町村等の関係機関に広く紹介することにより、重度精神障害者の地域における在宅生活に対する理解の促進や市町村、医療機関等との連携・協働による地域生活支援体制の推進に資する。

事業実施機関

- ・北海道立緑ヶ丘病院附属音更リハビリテーションセンター
〒080-0334
北海道河東郡音更町緑が丘1番地
Tel : 0155-42-4166
- ・北海道保健福祉部道立病院管理局
〒060-8588
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
Tel:011-231-4111 (内線 25-856)

《 資 料 編 》

音更リハビリテーションセンターにおける訪問型個別支援実施要綱

1 実施体制

2グループ10名体制

- ・ ①グループ：5名（看護師1、ケースワーカー2、判定員1、作業療法士1）
- ・ ②グループ：5名（作業療法士1、判定員1、保健師1、ケースワーカー2）

*ケースワーカーは2名を除き精神保健福祉士 / 医師による訪問は月1回程度

2 実施地域

十勝保健医療福祉圏

3 対象者

次の基準に概ね全て該当する者を対象者とする。

- (1) 十勝保健医療福祉圏に在住の方
- (2) 年齢が18歳から60歳までの方
- (3) 精神障害を有する方（次のいずれかの疾病を有する）
 - ・ 痴呆性疾患を除く「症状性を含む器質性精神障害」
 - ・ 統合失調症
 - ・ 気分障害
 - ・ ストレス関連障害及び身体表現性障害を含む知的障害（軽度） など
- (4) 精神科病院に通院中又は過去2年間に入院を必要とする程度の状態に繰り返し陥ったことのある方
- (5) 日常生活機能として過去1年間の最高のGAFが50点以下の方
- (6) 触法及び自傷・他害がない方

4 受入人数

実患者数で50名を受け入れ上限とする。

5 利用方法

音更リハへの直接の申込みのほか、市町村や医療機関からの相談があったものについて、利用の可否を決定する。

6 サービス提供について

- (1) 提供日時
24時間365日（*サービス提供期間は本人の状態に応じて判断）
- (2) 提供頻度
利用者の状態に応じて週1回又は2回程度
- (3) 提供方法
直接利用者宅を訪問
- (4) サービス提供内容
 - ・ 毎日の暮らしの支援 ～買い物、洗濯、医療機関受診調整など
 - ・ 服薬についての支援 ～病気や服薬に関する心理教育など
 - ・ ご家族への支援 ～疎遠になっている家族との関係修復など
 - ・ 住まいについての支援 ～住宅探しや転居の支援など
 - ・ 仕事に関する支援 ～職安への付き添いなど
 - ・ 他の社会資源の活用に関する支援 ～公的機関への付き添い、手続き支援など
 - ・ その他
- (5) 利用料
原則として訪問看護指導料の対象とする

主に都市部以外の遠隔地における重度精神障害者の在宅生活支援体制の構築に関する調査(イメージ図)

十勝保健医療圏

課題

社会 在宅医療機関から
遠地域における 性的による訪
問型個別支援の 性の

	先行例(千葉)	先行例(岡山)	十勝圏
面積(km ²)	約203	約1,241	約10,800
人口密度(人/km ²)	約7,400	約186	約33
市町村数	3市	4市4町	1市16町2村
精神科病院数	8	13	5
GH/共同住居	9	44	17
共同作業所	15	24	6

患者

家族

市町村

医療機関

・長期入院中の重度精神障害者の 院の

・在宅生活の に関する



在宅生活移行 等調査

○在宅生活への移行・断の当性の

患者宅等への訪問調査
1年間 概ね120ケース

音更リハビリター
ョンセンター
(音更町)

イケア

生活 施

その他の施

訪問型個別支援

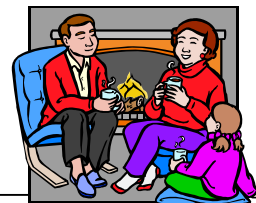
訪問型個別支援 調査

○遠隔地域における による訪問型個別支援の 果・課題の

○関 機関との 体 分担の

○ 用対 果の検証

患者宅等への訪問調査
2年間 概ね50ケース



～期 る 果～

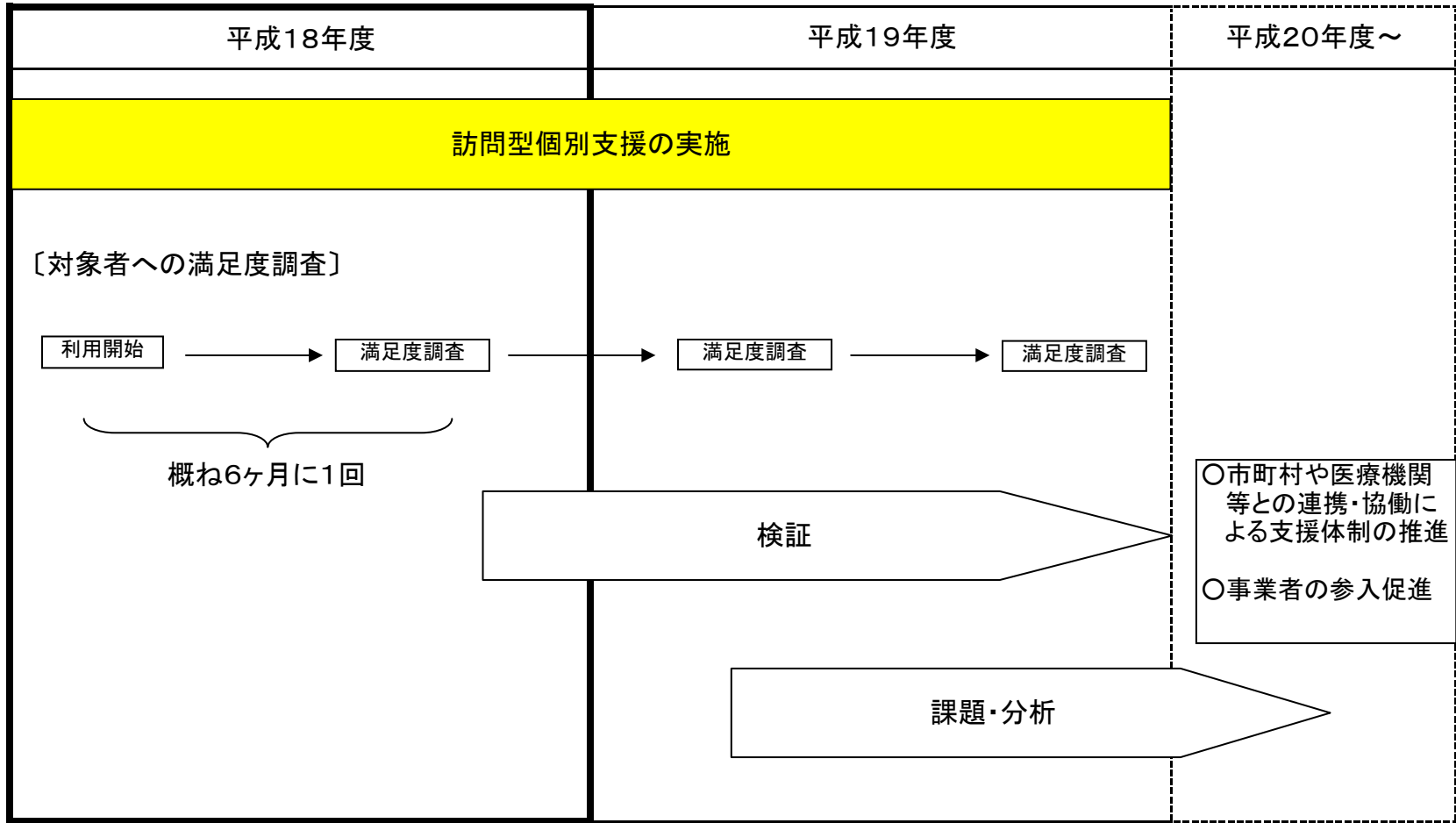
○都市部以外の遠隔地域において在宅生活 能 (重度精神障害者の長期入院解)

○重度精神障害者の在宅生活に対する理解の促進

○市町村や医療機関等との連携・協働による支援体制の推進

○事業者の参入促進

主に都市部以外の遠隔地域における重度精神障害者の在宅生活支援体制の構築に関する調査 スケジュール



今回補助金申請分

道立緑ヶ丘病院附属音更リハビリテーションセンターの概要

1 法的位置づけ等

(1) 精神障害者社会復帰施設（精神保健福祉法第50条の2第1項第1号）

精神障害者生活訓練施設

精神障害のため家庭において日常生活を営むのに支障がある精神障害者が日常生活に適応することができるように、低額な料金で居室その他の設備を利用させ、必要な訓練及び指導を行うことにより、その者の社会復帰の促進を図る（同第50条の2第2項）

(2) 診療所（医療法第1条の5） *診療科目：精神科、神経科

2 沿革

年月	内 容
S50.11	地方精神衛生審議会が道内4箇所社会復帰施設設置を答申
S54	緑ヶ丘病院の改築にあわせて社会復帰施設を建設する方針を決定
S57.9～S59.3	建設工事 *建設費：731,678千円
S59.7	開設 *道内初、全国で3番目

3 施設概要

(1) 構造・設備

- ・構造 鉄筋コンクリート2階建
- ・延べ床面積 1,673.44㎡
- ・設備 居室、相談・指導室、静養室、食堂、調理室、娯楽室、集会室、職員室、作業訓練室

(2) 組織

所長（1）	管理課長（1）－（2） 指導訓練課長（1）	指導訓練第一係長（8） *通所（デイケア）担当 指導訓練第二係長（4） *宿泊担当
-------	--------------------------	--

(3) 事業内容

- ・精神科デイケア
- ・社会生活に必要な技術を身につけるための相談、生活指導、作業訓練及び宿泊施設の提供等
- ・就労に関する援助
- ・社会復帰のための必要な調査及び研究
- ・その他社会復帰を促進するために必要な業務

4 事業実績

（人）

区分	定員	利用期間		⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
通所 (デイケア)	40名	6か月	延べ	5,901	6,206	7,002	7,341	6,798
		*延長可	1日平均	30.4	32.0	35.9	37.8	35.0
宿泊	20名	6か月*最長1年	延べ	3,420	2,947	4,616	5,787	4,853
		まで延長可	1日平均	9.4	8.1	12.6	15.9	13.3

（参考）道内での実施状況

	実施箇所	十勝管内の状況
精神科デイケア	67	音更リハ、国立帯広病院、大江病院
精神障害者生活訓練施設	14	音更リハ

訪問型個別支援についてのアンケート（家族）

※ 各設問について、あまり考えこまずに楽な気持ちでお答えください。

※ このアンケートの中では、患者さんご本人のことを「本人」と省略しています。

問1 訪問型個別支援で提供される①～⑮のサービスについてうかがいます。現在、これらのサービスは、あなたとご本人にとってどれだけ役に立っていますか。

1から4のうち、あてはまる数字1つに○印をつけてください。

	とても役に立つ	多少は役に立つ	あまり役に立たない	まったく役に立たない
例) お金のやりくりの手伝い	1	②	3	4
①精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士などの様々な専門家が集まったチームでの支援	1	2	3	4
②利用者の自宅を訪問しての支援	1	2	3	4
③チームの担当者による、不安や困りごとについての相談	1	2	3	4
④一人暮らしをしたとき、部屋探しなど必要な準備の手伝い	1	2	3	4
⑤入院が必要なとき、その手続きの手伝い	1	2	3	4
⑥食事、掃除、買い物などの様々な日常生活の支援	1	2	3	4
⑦薬の説明や服薬についてのアドバイス	1	2	3	4
⑧仕事をしたいとき、仕事探しの手伝いや仕事についた後の支援	1	2	3	4
⑨お金のやりくりの手伝い	1	2	3	4
⑩担当のスタッフによる、家族の不安や困りごとについての相談	1	2	3	4
⑪今ある社会資源（生活訓練施設や作業所、福祉ホームなど）をうまく活用するための支援	1	2	3	4
⑫より良い生活を送るために必要な知識を得ること	1	2	3	4
⑬以上のような支援がこのチームにより一括して提供されること	1	2	3	4
⑭24時間、土曜日曜もふくめて利用者の相談などに対応すること	1	2	3	4
⑮このチームの支援が必要なかぎり、支援を受け続けることができること	1	2	3	4

問2 訪問型個別支援で受けた援助サービス（ご本人に対するサービスもご家族に対するサービスも含みます）についておたずねします。もっともあてはまる数字それぞれ1つに○をつけてください。

A. あなた方ご家族やご本人が受けた援助サービスの質はどの程度でしたか。

1) 大変よい

2) よい

3) まあまあ

4) よくない

B. あなた方ご家族やご本人が望んでいた援助サービスは受けられましたか。

- 1) まったく受けなかった 2) そうでもなかった 3) だいたい受けた 4) 十分に受けた

C. この援助サービスは、どの程度あなた方ご家族やご本人が必要としたものでしたか。

- 1) ほぼすべて
必要としたもの 2) だいたい
必要としたもの 3) いくらかは
必要としたもの 4) まったく必要とした
ものではなかった

D. もし知人が同じ援助を必要としていたら、この援助サービスを推薦しますか。

- 1) 絶対にしない 2) しないと思う 3) すると思う 4) 絶対する

E. 受けた援助の量に満足していますか。

- 1) とても不満 2) どちらでもないか
少し不満 3) ほぼ満足 4) とても満足

F. 受けた援助サービスは、あなた方ご家族やご本人が自分の問題によりよく対処するのに役立ちましたか。

- 1) 大いに役立った 2) まあまあ役立った 3) まったく役立た
なかった 4) 悪
を及ぼした

G. 全体として一般的にあって、あなた方ご家族やご本人が受けた援助サービスに満足していますか。

- 1) とても満足 2) だいたい満足 3) どちらでもないか
少し不満 4) とても不満

H. また援助が必要になったとき、この援助サービスをもう一度受けたいと思いますか。

- 1) 絶対受けない 2) 受けないと思う 3) 受けると思う 4) 絶対受ける

問3 ご本人あるいはあなた方ご家族が訪問型個別支援の利用に関して か心配なことはありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1) 利用者と訪問スタッフとの人間関係 | 7) これまで利用してきた援助サービスとの関係は
どうなるのか |
| 2) 本当に効果的なプログラムなのかどうか | 8) 重い精神障害をもつ人が地域でくらすことで、
家族の負担が増えるのではないか |
| 3) 利用者の自立を <input type="checkbox"/> するのはではないか | 9) 重い精神障害をもつ人が地域でくらし、社会
とのトラ <input type="checkbox"/> ルが <input type="checkbox"/> きるのではないか |
| 4) 利用者の生活が干 <input type="checkbox"/> されてしまうのではないか | 10) 訪問にどのくらいの費用がかかるのか |
| 5) 今の主 <input type="checkbox"/> 医との関係がどうなるのか | 11) その他 (<input type="checkbox"/>) |
| 6) 自宅にスタッフが訪問すること | 12) 心配ない |

問4 訪問型個別支援についてどのように思われましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1) 利用者の地域で生活する力を伸ばすプログラムで ある	6) 訪問型個別支援を利用すれば、 の生活状 況・生活の質は良くなると思う。
2) 訪問型個別支援を利用すれば、家族の負担が軽く なりそうだと思う	7) 自分には関係がない
3) 利用者が家族から自立する上で役に立っていると 思う	8) よくわからない
4) 家族がお しきれなくなったとき、訪問型個別 支援なら安心してまかせられると思う	9) その他 ()
5) 利用者が就労する上で役に立っていると思う	

問5 来、ご本人およびご家族が訪問型個別支援を継続して利用していくことについて、あなたのお考
えをお かせ下さい。

	大いに そう思う	そう思う	そう思わ ない	わから ない
今後継続して訪問型個別支援を利用することは、ご本人に とって役に立つ	1	2	3	4
今後継続して訪問型個別支援を利用することは、家族 にとって役に立つ	1	2	3	4
今後継続して訪問型個別支援をご本人に利用して しい	1	2	3	4
今後継続して訪問型個別支援を家族として利用したい	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。質問は以上で終わりです

記入日 年 月 日

訪問型個別支援についてのアンケート（本人）

※ 各設問について、あまり考えこまずに楽な気持ちでお答えください。

問1 訪問型個別支援で提供される①～⑮のサービスについてうかがいます。現在、これらのサービスは、あなたにとってどれだけ役に立っていますか。

1から4のうち、あてはまる数字1つに○印をつけてください。

	とても役に立つ	多少は役に立つ	役に立たない あまり	役に立たない まったく
例) お金のやりくりの手伝い	1	2	3	4
①精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士などの様々な専門家が集まったチームでの支援	1	2	3	4
②自宅を訪問しての支援	1	2	3	4
③チームの担当者による、不安や困りごとについての相談	1	2	3	4
④一人暮らしをしたとき、部屋探しなど必要な準備の手伝い	1	2	3	4
⑤入院が必要なとき、その手続きの手伝い	1	2	3	4
⑥食事、掃除、買い物などの様々な日常生活の支援	1	2	3	4
⑦薬の説明や服薬についてのアドバイス	1	2	3	4
⑧仕事をしたいとき、仕事探しの手伝いや仕事についた後の支援	1	2	3	4
⑨お金のやりくりの手伝い	1	2	3	4
⑩担当のスタッフによる、家族の不安や困りごとについての相談	1	2	3	4
⑪今ある社会資源（生活訓練施設や作業所、福祉ホームなど）をうまく活用するための支援	1	2	3	4
⑫より良い生活を送るために必要な知識を得ること	1	2	3	4
⑬以上のような支援がこのチームにより一括して提供されること	1	2	3	4
⑭24時間、土曜日曜もふくめて利用者の相談などに対応すること	1	2	3	4
⑮このチームの支援が必要なかぎり、支援を受け続けることができること	1	2	3	4

問2 訪問型個別支援で受けた援助サービス（あなたに対するサービスもご家族に対するサービスも含みます）についておたずねします。もっともあてはまる数字それぞれ1つに○をつけてください。

A. あなたやご家族が受けた援助サービスの質はどの程度でしたか。

- 1) 大変よい 2) よい 3) まあまあ 4) よくない

B. あなたやご家族が望んでいた援助サービスは受けられましたか。

- 1) まったく受けなかった 2) そうでもなかった 3) だいたい受けた 4) 十分に受けた

C. この援助サービスは、どの程度あなたやご家族が必要としたものでしたか。

- 1) ほぼすべて 2) だいたい 3) いくらかは 4) まったく必要とした
必要としたもの 必要としたもの 必要としたもの ものではなかった

D. もし知人が同じ援助を必要としていたら、この援助サービスを推薦しますか。

- 1) 絶対にしない 2) しないと思う 3) すると思う 4) 絶対する

E. 受けた援助の量に満足していますか。

- 1) とても不満 2) どちらでもないか 3) ほぼ満足 4) とても満足
少し不満

F. 受けた援助サービスは、あなたやご家族が自分の問題によりよく対処するのに役立ちましたか。

- 1) 大いに役立った 2) まあまあ役立った 3) まったく役立た 4) 悪 を及ぼした
なかった

G. 全体として一般的にあって、あなたやご家族が受けた援助サービスに満足していますか。

- 1) とても満足 2) だいたい満足 3) どちらでもないか 4) とても不満
少し不満

H. また援助が必要になったとき、この援助サービスをもう一度受けたと思いますか。

- 1) 絶対受けない 2) 受けないと思う 3) 受けると思う 4) 絶対受ける

問3 訪問に関して か心配なことはありますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1) と訪問スタッフとの人間関係 | 6) 自宅にスタッフが訪問すること |
| 2) 本当に効果的なプログラムなのかどうか | 7) 訪問にどのくらいの費用がかかるのか |
| 3) の自立を るのではないか | 8) その他 () |
| 4) の生活が干 されてしまうのではないか | 9) 心配ない |
| 5) 今の主 医との関係がどうなるのか | |

問4 訪問についてどのように思われましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1) の地域で生活する力を伸ばすのに役立っている	5) 訪問を利用すれば、 の生活状況・生活の質は良くなると思う
2) が家族から自立する上で役に立っていると思う	6) 訪問を利用すれば、家族の負担が軽くなりそうだと思う
3) 家族の援助が受けられなくなったとき、訪問があれば安心だと思う	7) よくわからない
4) が就労する上で役に立っていると思う	8) その他 ()

問5 来、訪問型個別支援を継続して利用していくことについて、あなたのお考えをお かせ下さい。

	大いに そう思う	そう思う	そう思わ ない	わから ない
今後継続して訪問型個別支援を利用することは、 にとって役に立つ	1	2	3	4
今後継続して訪問型個別支援を利用したい	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。質問は以上で終わりです

記入日 年 月 日